

【寄稿】子どもに寄り添うことは自分と向き合うこと

わくわくキッチンふじかわ 代表 柳朝子

子どもの声を聴く

子どもの声を聴く。簡単に聞こえますが、それができていると自信を持って言える大人は多くはありません。なぜできないのかというと、充分聴いてもらった経験がないからだと思います。経験がないことはわかりません。

子どもはそこに向き合わせてくれる存在なのではないでしょうか。

2023年夏、私たちの団体は初めて、性暴力に向き合わなければならない経験をしました。

被害者の一人に、気づいてあげられなかったことを詫び、「キャンプの時に言えなかったのはどうしてか聞いていい？」と聞くと、「なんか気まずくて言えなかった」と答えてくれました。

性被害センターへの電話、警察への報告、参加者全員への報告と安全確認。

いくら加害者を排除しても、新たな加害者は出てきます。これが災害時だったら、出てくる加害者は後を絶たないでしょう。そしてその時に、親が生きて子どもの側にいて守ってあげられるとは限りません。

必要なこと

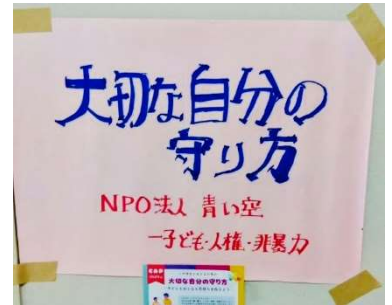
子どもが自分で自分を守れる行動がとれること。

大人は子どもが万が一の時に、困ったことを伝えられるように関係性を学ぶこと。

この2つを強く感じました。

そんな時に子ども食堂のメンバーが見せてくれたのが『「同意」ってなに？ YES、NOは自分が決める！』。その本に書かれていたのがCAP(キャップ)センター・JAPANでした。

すぐに連絡を取り、CAP講座を伝えている“青い空”と繋がり、何度も打ち合わせをして、私たちの想いも一緒に講座に乗せてもらえることになりました。



手作りのポスターが入口に

講座中驚いたのですが、子どもの話を聞かない場面と、自分の気持ちを聴いても
られない場面2つの体験をするシリアスな内容だったにも関わらず、たくさんの笑
いが出ているのです。

大切な存在

講師の方たちが、子どもを大切にするのと同じで、大人にも「あなたも同じくら
い大切な存在」という想いで向き合ってくれているからできる和やかさだなと感じ
ました。

「いままで子どもにしてしまったことはもう変えられないからいいんです。でも今
この瞬間からはいくらでも変えていけるからね」と、最後まで「過去の自分を責め
る必要はない」という姿勢を変えないでくれた講師のお二人。

講座後のシェアの時間に参加者から様々な体験談を聞いたのも、お二人が短時間
でもしっかり信頼関係を築くことの大切さを身を持って示してくれたからだと思
います。

まずは自分を大切にすること。

ちゃんと心の声を聴いてあげること。

聴けなかった時も決して自分を責めないこと。

そこを日々満たしてあげると、自然に他者や子どもへの思いやりに繋がるのかも
しれない、と感じられた2時間でした。



おとなワークショップの様子